

週日の説教

金 大烈 神父 2008年6月4日(木)

《神様を愛することは、あなたの意志です》

誰かのことを好きになり、何も手につかなくなってしまったことがあったでしょうか。たとえば、私自身は中学生の時に、指導をしてくださったシスターが好きになり、彼女が他のところに異動されたときにどのくらい心を痛めたか言葉では言い表せません。その方は、もう70歳になられる年齢ですが、今も時々連絡が来ます。そして、今は逆に彼女のほうが私のことを好きになっています(笑)とにかくそういう記憶があります。

こういう感情は、自分の意思で自由にできるものではありません。あの人に会いたい、あの人のために何かしたい、あの人の目に留まりたい、と思い、できるだけ一番魅力的な自分の姿を見せようとするのが私たちの自然な心理ではないかと思えます。

皆様、今日の福音(マルコ 12:28b - 34)で、イエス様は、何と何を尽くして愛しなさい、とおっしゃったでしょうか。一緒に考えてみましょう。「心を尽くし」、「精神を尽くし」、「思いを尽くし」、「力を尽くし」てですね。結局、自分の全存在を尽くして愛しなさい、ということですよね。

神様は全く見えない方です。ただ「いる」ことを感じるだけです。ふつう人間は、相手の何かに魅力を感じて、そこに目が留まり、一目ぼれをしたり、心を奪われることになります。しかし私たちは、毎日『神様、神様』、と言いながら神様がどのような姿をしているか知らないのです。では、どうすれば、全存在をかけて神様を愛することができるのでしょうか。それなのに、第一の掟は、「あなたの全てをかけて神様を愛しなさい」ですね。そして第二の掟は、同じように隣人を自分の体の一部のように愛しなさい、です。言葉としてはとても易しいものです。しかし、実行するのはどちらも本当に難しい、ということ、私たちはよくわかっていると思えます。

とにかく、イエス様は、第一の掟として、『全てをかけて神様を愛しなさい』とおっしゃっています。では、どうしたらよいのでしょうか。計らずも落ちる恋のようではなくて、自分の意志で何とか近づこうと努力することだと思えます。一目惚れは、長くは続きません。何かの魅力に自分の心を奪われた場合、その何かよりもっと優れたものが必ず現れます。だから、飽きてしまい、「私はなぜこの人に魅力を感じて今までついてきたのか」などの失望を感じてしまう場合が結構あるのです。

逆に、意志による愛は、頑張ればそのようになります。たとえば、この人を「赦さなければならぬ」、「赦さなければならぬ」、「赦さなければならぬ」といつも繰り返していると、いつの間にか、自分が赦していることに気づくものです。愛も同じです。「この人を愛さなければならぬ」、「何とかしなければならぬ」と繰り返すのです。初めは責任感やいろいろな形から始まった意志かもしれませんが、「愛さなければならぬ」という自分への洗脳によって、知らないうちにその人を愛していることを感じる場合が結構あります。実際、夫婦の関係はそういうものではないでしょうか。関係に疲れたこともたくさんあるでしょう。しかし、「この人を愛さなければならぬ、愛さなければならぬ」と思いながら、いつの間にか本当に「この人がいなければ私には何も無い」というところまでたどり着くのでしょう。

皆様、イエス様のおっしゃった「愛しなさい」という言葉は意志です。神様にもっと近づこうと努力することです。そして、神様から与えられたいろいろな恵みを感じ、感謝し、全てをかけて頼らなければならない存在だ、と思うことです。そのような過程を通して私たちは神様に対しての愛に熟されます。こういう段階を無視してはいけません。

まれに、ある立派な司祭の説教を聞いて人生が変わったという人がいます。けれども、それは長くは続きません。それは動機になるかもしれませんが、しかし、そこから先は自分との戦いです。近づこ

うとする戦いです。このような出会いがあったから、その方についてもっと詳しく知りたい、という強い熱望を持ち、近づく努力をすること。それによって神様の恵みがどのくらい自分に与えられているかを悟ることになります。

皆様、何十年も信仰の生活をしていても、イエス様に・神様に、愛を感じていない人が結構います。何をあげてもいつも文句を言う人がいるのと同じです。本当にもどかしいです。しかし皆様、よく考えてください。神様を知ろうとどのくらい努力してきたでしょうか。困ったときに「何とかしてください」と祈るくらいではないでしょうか。そうではなくて、日常の生活の中で、家族のいろいろなこと、隣人のいろいろなことを見ながら、「イエス様、感謝します。私にこのような困難（病気など）を与え、それを通してあなたに近づきやすくしてくださったことに、本当に感謝します」と祈れることが必要です。

皆様、このように愚かなことを言う人がいます。「神様を愛するのと人間を愛するのとどちらが大切でしょうか。私は人間を愛するほうがはるかに大切だと思うので、ミサには与りませんが、いろいろな奉仕や社会的な活動をしています。だから私は信仰者です。」とんでもない話です。神様に祈らずに行なう活動は、利己心から出た自己満足のためのいたずらでしかありません。少なくとも、カトリック信者ならばそうです。本当に神様に愛を感じる人ならば、自然に人々によいことをするものです。ですから皆様、よく考えてみましょう。神様を愛する方法、神様を知る方法は、やはり祈りに従うものであることを意識しましょう。

それでも、やはり難しいですね。もし愛を感じられれば、それは祝福です。この世の中が終わるまで一度も愛されている気持ちを持たずに死んでしまう靈魂もたくさんいるでしょう。私たちは口だけではなく、イエス様がおっしゃった愛についていつも黙想ができる、そしてそれを求める心ができるように努力することが何よりも必要ではないかと思っています。

ありがとうございました。